

青木美希著

『なぜ日本は原発を止められないのか』

文春新書 2023年11月刊
定価：本体860円+税

猿渡 実 (大分自治労連)



能登半島地震被災地の救援をと考えていた頃、書店で本書を見つけました。著者は、北海道の地方新聞記者を経て、全国紙の記者になった女性。祖父が電力会社の社長、父親が大学工学部で原発に代わる発電方法の研究開発に取り組んでいたこともあり、学生時代から原発に関心を持ち、記者になってからも取材に取り組んできました。

2011年3月11日に福島第1原子力発電所で大事故が起きました。本書では、避けることができた事故としています。非常用発電機を地下に設置したのは、津波を想定しない「竜巻やハリケーンに備えた」米国式設計をそのまま採用したため。また、「高い津波をもたらす地震発生の確率が今後30年で20%」との警告を無視した結果と断じています。

なぜ原発を止められないのか。著者は、「原子力村（ムラ）」と「原発マネー」の存在を上げています。原子力ムラは政（権）、官、業（界）、学（者）、メディアで構成され、村長は歴代の総理大臣だったとしています。本書では、その理由を詳しく説明しています。

経済産業省等に関係する政治家に配るお金（献金）は昔と違い、今は政治資金パーティーになっていて、その購入は電事連（電気事業連合会）が仕切っていると指摘しています。裏金問題が大きく報じられているなか、原発マネーで大物政治家と

電事連が関係を強め、原発回帰に向かわせたものと想像に難くありません。

電力会社は原発導入のために作った神話を広めようと、手塚治虫氏の「鉄腕アトム」を利用した宣伝を行っていました。特に福島第1原発事故までは、「科学の力」とも言いたかったのでしょうか。しかし、手塚氏は「原子力関係は全部断っています」「僕も原発に反対です」と生前に語っていたと、著者は注釈しています。電力会社のこのような何でも利用する姿勢に呆れます。

本書には小泉純一郎元首相も登場します。小泉氏は「事故」以降態度を変え、反原発を訴えています。2023年5月に岸田首相に会った際に言ったことが面白いので紹介します。「憲法改正は3分の2ないと無理だ。原発ゼロは総理が決めればすぐにできる。できないことを言って、できることをやらないのはおかしいじゃないか」。岸田首相は苦笑いしながら「総理が決めれば……」と復唱していたといえます。

なお、著者は現在の全国紙記者の肩書きで執筆、出版を試みましたが、上司（会社）の理解が得られず、1人のジャーナリストとして本書を出版しました。こんな困難を強いる原子力ムラの構成員であるメディア。「言論の自由」のためにもこの構造を改める必要性を感じました。

（えんど みのる）